

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成 26 年 12 月 25 日 (2014.12.25)

【公開番号】特開 2014-213177 (P2014-213177A)

【公開日】平成 26 年 11 月 17 日 (2014.11.17)

【年通号数】公開・登録公報 2014-063

【出願番号】特願 2013-95938 (P2013-95938)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

A 6 3 F 7/02 3 3 4

【手続補正書】

【提出日】平成 26 年 10 月 23 日 (2014.10.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技を行うことが可能な遊技機であって、
回路基板を収納する第 1 被覆体及び第 2 被覆体からなる基板ケースと、
前記第 1 被覆体と前記第 2 被覆体とを封止状態とする封印シールと、
前記基板ケースに貼付された封印シールを被覆可能な封印シール被覆部材と、
を備え、
前記封印シールは、該封印シールの粘着力を低下させるために所定の溶剤が用いられた
ときに該溶剤が使用された痕跡を残す溶剤使用特定部を有し、
前記溶剤使用特定部は、前記封印シールの縁部に設けられている
ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 0】

前記課題を解決するために、本発明の請求項 1 に記載の遊技機は、
遊技を行うことが可能な遊技機（例えば、スロットマシン 1 / パチンコ遊技機 1 0 0 1
）であって、
回路基板（例えば、遊技制御基板 4 0 / 主基板 1 0 3 1）を収納する第 1 被覆体（例え
ば、ベース部材 2 0 1 / ベース部材 1 2 0 1）及び第 2 被覆体（例えば、カバー部材 2 0
2 / カバー部材 1 2 0 2）からなる基板ケース（例えば、基板ケース 2 0 0 / 基板ケース
1 2 0 0）と、
前記第 1 被覆体と前記第 2 被覆体とを封止状態（例えば、基板ケースが開封されたらそ
の痕跡が残るように閉鎖した第 2 封止状態）とする封印シール（例えば、封印シール 4 0
0 / 封印シール 1 4 0 0）と、
前記基板ケースに貼付された封印シールを被覆可能な封印シール被覆部材（例えば、シ
ール保護カバー 2 2 8 / シール保護カバー 1 2 2 8）と、

を備え、

前記封印シールは、該封印シールの粘着力を低下させるために所定の溶剤が用いられたときに該溶剤が使用された痕跡を残す溶剤使用特定部（例えば、所定の剥離液（例えば、溶剤 A や溶剤 B など）と接触することにより該剥離液に溶解する特殊インクにて印刷形成された第 1 溶剤使用表示部 4 5 0 A ~ 4 5 0 D、第 2 溶剤使用表示部 4 6 0 A ~ 4 6 0 D / 第 1 溶剤使用表示部 1 4 5 0 A ~ 1 4 5 0 D、第 2 溶剤使用表示部 1 4 6 0 A ~ 1 4 6 0 D）を有し、

前記溶剤使用特定部は、前記封印シールの縁部に設けられている（例えば、図 1 5（a）に示すように、第 2 溶剤使用表示部 4 6 0 A ~ 4 6 0 D は、長辺 L 1 0 及び短辺 L 2 0 に沿って枠状に延設されている / 図 3 3（a）に示すように、第 2 溶剤使用表示部 1 4 6 0 A ~ 1 4 6 0 D は、長辺 L 1 0 及び短辺 L 2 0 に沿って枠状に延設されている）

ことを特徴としている。

この特徴によれば、溶剤を使用して封印シールの粘着力を低下させようとした場合、該封印シールの溶剤使用特定部に該溶剤が使用された痕跡が残ることで、溶剤を使用して封印シールの粘着力を低下させようとしたことがわかるようになるため、溶剤により剥離した封印シールを再度貼付するといった不正行為を抑制できるとともに、封印シールは封印シール被覆部材により被覆されることで、封印シールを剥離するには封印シール被覆部材を取り外さなければならず手間がかかるようになるため、不正行為を抑制することができる。また、封印シールのうち剥離されやすい縁部に溶剤使用特定部が設けられることで、溶剤が使用された痕跡が残りやすい。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 1】

本発明の手段 1 に記載の遊技機は、請求項 1 に記載の遊技機であって、

前記第 1 被覆体（例えば、ベース部材 2 0 1 / ベース部材 1 2 0 1）に設けられた第 1 被覆体側封印シール貼付部（例えば、ベース側封印部 2 2 9 / ベース側封印部 1 2 2 9）と、前記第 2 被覆体（例えば、カバー部材 2 0 2 / カバー部材 1 2 0 2）に設けられた第 2 被覆体側封印シール貼付部（例えば、カバー側封印部 2 2 4 / カバー側封印部 1 2 2 4）と、を含む封印シール貼付部を備え、

前記封印シールが前記第 1 被覆体側封印シール貼付部と前記第 2 被覆体側封印シール貼付部とに跨るように貼付されたときに該第 1 被覆体側封印シール貼付部と該第 2 被覆体側封印シール貼付部との境界部（例えば、境界部 Z）に位置しない部分に前記溶剤使用特定部が配置されている（例えば、図 1 5（a）に示すように、封印シール 4 0 0 は、基板ケース 2 0 0 に貼付されたときに境界部 Z に掛からない位置に第 1 溶剤使用表示部 4 5 0 A ~ 4 5 0 D、第 2 溶剤使用表示部 4 6 0 A ~ 4 6 0 D が印刷されている。 / 図 3 3（a）に示すように、封印シール 1 4 0 0 は、基板ケース 1 2 0 0 に貼付されたときに境界部 Z に掛からない位置に第 1 溶剤使用表示部 1 4 5 0 A ~ 1 4 5 0 D、第 2 溶剤使用表示部 1 4 6 0 A ~ 1 4 6 0 D が印刷されている。）

ことを特徴としている。

この特徴によれば、封止状態としたときに溶剤使用特定部が境界部に掛かることがないので、例えば、遊技店において回路基板の検査等のために封印シールを破断して基板ケースを開放したことにより溶剤使用特定部が破断してしまうことで、それ以前に溶剤と接触した痕跡が表れていたことが判りにくくなってしまうことが防止される。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

本発明の手段2に記載の遊技機は、請求項1または手段1に記載の遊技機であって、前記溶剤使用特定部は、前記封印シール（例えば、封印シール400）が前記基板ケース（例えば、基板ケース200）に貼付されたときに前記回路基板（例えば、遊技制御基板40）において制御用マイクロコンピュータ{例えば、メイン制御部41（メインCPU41a、ROM41b、RAM41c、I/Oポート41d）}が実装される実装面（例えば、実装面40a）と同方向を向く部分に配置されている（例えば、図15（a）に示すように、封印シール400は、基板ケース200に貼付されたときに実装面40aと同方向（上方）を向く部分である上部領域R1に第1溶剤使用表示部450Aが配置されている）

ことを特徴としている。

この特徴によれば、溶剤使用特定部及び制御用マイクロコンピュータの実装面の双方を一緒に視認することができることで、溶剤使用特定部及び制御用マイクロコンピュータに対する不正行為の確認作業を容易に行うことが可能となるため、作業負担を軽減できる。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

本発明の手段3に記載の遊技機は、請求項1、手段1、手段2のいずれかに記載の遊技機であって、

前記封印シール（例えば、封印シール400 / 封印シール1400）は、各々を識別可能な識別情報（例えば、シリアル番号や2次元バーコードなど）が表示された識別情報表示部（例えば、第1識別情報表示部451 / 第1識別情報表示部1451、第2識別情報表示部452 / 第2識別情報表示部1452）を有し、

前記基板ケースに貼付されたときに互いに同方向を向く部分に前記溶剤使用特定部と前記識別情報表示部とが配置されている（例えば、図15（a）に示すように、封印シール400は、基板ケース200に貼付されたときに互いに同方向（上方）を向く部分である上部領域R1に第1溶剤使用表示部450Aと第1識別情報表示部451及び第2識別情報表示部452とが配置されている。 / 図33（a）に示すように、封印シール1400は、基板ケース1200に貼付されたときに互いに同方向（右側方）を向く部分である右側方領域R10に第1溶剤使用表示部1450A、1450Bと第1識別情報表示部1451及び第2識別情報表示部1452とが配置されている）

ことを特徴としている。

この特徴によれば、溶剤使用特定部及び識別情報表示部の双方を一緒に視認することができることで、溶剤使用特定部及び識別情報表示部の確認作業を容易に行うことが可能となるため、作業負担を軽減できる。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

本発明の手段6に記載の遊技機は、請求項1、手段1～手段5のいずれかに記載の遊技機であって、

前記基板ケース（例えば、基板ケース200 / 基板ケース1200）は、前記封印シール（例えば、封印シール400 / 封印シール1400）が貼付される封印シール貼付部（例えば、ベース側封印部229、カバー側封印部224 / ベース側封印部1229、カバ

一側封印部 1 2 2 4) を有し、

前記封印シール貼付部の周囲には、貼付された封印シールの周囲を囲むように周壁部（例えば、位置決め凸条 4 1 1 , 4 2 1 / 位置決め凸条 1 4 1 1 , 1 4 2 1 ）が形成されている

ことを特徴としている。

この特徴によれば、封印シールを剥離する際に周囲の周壁部が邪魔になって剥離しにくくなるため、溶剤により剥離した封印シールを再度貼付するといった不正行為を抑制できる。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 8】

このようにスタートスイッチ 7 を除く各種電気部品と遊技制御基板 4 0 とを、スロットマシン 1 の本体（本実施例では、筐体 1 a ）所定箇所に取り付けた電源基板 1 0 1 及び各中継基板 1 1 0 、 1 2 0 、 8 0 を経由して配線接続することで、遊技制御基板 4 0 からスロットマシン 1 の本体所定箇所に個々に配設される複数の電気部品との配線の取りまとめが容易になるとともに、コネクタ接続部が常に中継基板または遊技制御基板 4 0 に設けられることになり、これにより各電気部品それぞれのコネクタ接続部が固定されるため、配線接続作業時においてコネクタ接続部を探したり、接続する配線の種類を間違えること等が防止される。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 9】

また、本実施例では、ゲームの進行に応じて遊技制御基板 4 0 に対して信号を入力する第 1 の電気部品 5 、 6 、 7 、 8 、 3 1 、 3 3 L , 3 3 C , 3 3 R 、 3 5 及びゲームの進行に応じて遊技制御基板 4 0 から信号が出力される第 2 の電気部品 3 2 L , 3 2 C , 3 2 R 、 3 4 のうち、スタートスイッチ 7 と遊技制御基板 4 0 との間のコネクタ接続のみコネクタ規制部材 6 5 0 を設けてコネクタ同士の接続の解除を規制している。すなわちその信号がなければ遊技を進行させることができない電気部品の一つであるスタートスイッチ 7 （スタートスイッチ 7 からの信号が入力されなければゲームを開始することが不可能となる）と遊技制御基板 4 0 との間のコネクタ接続のみコネクタ規制部材 6 5 0 を設けてコネクタ同士の接続の解除を規制しており、他の電気部品と遊技制御基板 4 0 との間でコネクタ同士の接続を解除して打ち込み器具のコネクタに差し替えた場合でも、実質的に遊技を自動的に進行させることができなくなるため、最小限の規制で不正行為を防止することが可能となり、これらコネクタ同士の接続を解除するための部品点数を減らすことができる。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 8 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 8 4】

そして、サブ CPU 9 1 a は、その起動時において RAM 9 1 c の全ての領域に格納されたデータに基づいて RAM パリティを計算し、RAM パリティが 0 であることを条件に、RAM 9 1 c に記憶されているデータに基づいてサブ CPU 9 1 a の処理状態を電断前の状態に復帰させるが、RAM パリティが 0 でない場合（1 の場合）には、RAM 異常と

判定し、RAM 9 1 c を初期化するようになっている。この場合、サブ CPU 9 1 a と異なり、RAM 9 1 c が初期化されるのみで演出の実行が不能化されることはない。

【手続補正 1 0】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 2 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 2 1】

（基板ケース）

基板ケース 2 0 0 は、図 6 に示すように、回路基板の一例である遊技制御基板 4 0 の裏面（他面）4 0 b 側を覆う第 1 被覆体としてのベース部材 2 0 1 と、遊技制御基板 4 0 の実装面（一面）4 0 a 側を覆う第 2 被覆体としてのカバー部材 2 0 2 と、から構成され、遊技制御基板 4 0 を挟持するように組み付けられるものである。尚、遊技制御基板 4 0 の実装面 4 0 a には、特に詳細な図示はしないが、メイン CPU 4 1 a、ROM 4 1 b、RAM 4 1 c、I/Oポート 4 1 d を備えたマイクロコンピュータ（制御用マイクロコンピュータ）からなるメイン制御部 4 1 や、他の基板からのケーブルの一端に設けられたケーブル側コネクタ等が接続される基板側コネクタ 6 2 0 a ~ 6 2 0 d 等が多数実装されている。

【手続補正 1 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 3 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 3 3】

取付封止片 2 3 0、予備用取付封止片 2 3 1、予備用封止片 2 3 2 の筒状部は、上面が開口する有底四角筒状に形成され、内部にワンウェイネジ 2 4 0 a ~ 2 4 0 c を収納可能な大きさを有し、ワンウェイネジ 2 4 0 a ~ 2 4 0 c の上部を収納可能な大きさに形成されているとともに、底部には、ワンウェイネジ 2 4 0 a ~ 2 4 0 c の頭部の直径よりも小径の取付孔 2 3 4、2 3 5 が形成されている。取付孔 2 3 4 は、封止状態において、ネジ孔 2 1 0 の対向位置に配置される。取付孔 2 3 5、2 3 5 は、後述する取付状態において、ネジ穴 3 1 6 a、3 1 6 b の対向位置に配置される。

【手続補正 1 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 4 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 4 0】

そして、各係合片 2 2 0 が各係合溝 2 5 0 の端部に当接するとともに、カバー側溶着部 2 2 3 の右端部が規制片（図示略）に当接してスライド移動が規制されると、左側の短辺では、ベース部材 2 0 1 の係止片 2 0 3、2 0 3 が挿通穴 2 2 2、2 2 2 内に挿通される。このように、各係合片 2 2 0 が各係合溝 2 5 0 に係合され、カバー側溶着部 2 2 3 の右端部が規制片（図示略）に係止され、係止片 2 0 3、2 0 3 が挿通穴 2 2 2、2 2 2 内に挿通されることによりベース部材 2 0 1 にカバー部材 2 0 2 が組み付けられ、ベース部材 2 0 1 に対するカバー部材 2 0 2 の組付位置が決定し、ベース部材 2 0 1 とカバー部材 2 0 2 とが位置合わせ（合体）されてベース部材 2 0 1 の開口が閉鎖された閉鎖状態（係止状態）となり、後述する封止が可能な状態となる（図 9 及び図 1 0 参照）。

【手続補正 1 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 4 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 1 4 5 】

封印シール 4 0 0 は、図 1 5 (a) に示す封印シール 4 0 0 の正面視において左右幅方向を向く長辺 L 1 0 と上下方向を向く短辺 L 2 0 とを有する略長形状に形成されており、図 1 5 (b) に示すように、封印シール 4 0 0 は、封印シール 4 0 0 を貼付可能とするための粘着剤層 4 0 2 と、該粘着剤層 4 0 2 が形成されるシール基材 4 0 1 と、から構成されており、粘着剤層 4 0 2 の表面には剥離紙 4 0 4 が貼付されている。この剥離紙 4 0 4 は封印シール 4 0 0 を基板ケース 2 0 0 に貼り付ける際に剥離される。尚、粘着剤層 4 0 2 は、シール基材 4 0 1 の全域にわたり設けられている。

【手続補正 1 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 2 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 2 2 5 】

底板 3 1 0 a における右側の短辺部近傍には、基板ケース 2 0 0 の取付封止片 2 3 0 及び予備用取付封止片 2 3 1 に挿通されるワンウェイネジ 2 4 0 a , 2 4 0 b が取り付けられるネジ穴 3 1 6 a , 3 1 6 b が形成された取付台座 3 1 5 が装着される台座装着穴 3 1 7 が形成されている。取付台座 3 1 5 は、底板 3 1 0 a の裏面側から台座装着穴 3 1 7 内に嵌合により装着されるようになっている。装着時においては、図 1 3 (a) に示すように、ネジ穴 3 1 6 a , 3 1 6 b は底板 3 1 0 a の前面よりも前方に突出した状態で取付封止片 2 3 0 及び予備用取付封止片 2 3 1 の取付孔 2 3 5 , 2 3 5 に対向配置されるようになっている。

【手続補正 1 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 4 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 2 4 0 】

また、仮止め状態としたときに、カバー部材 2 0 2 における取付封止片 2 3 0 及び予備用取付封止片 2 3 1 が取付台座 3 1 5 に対向配置され、取付封止片 2 3 0 及び予備用取付封止片 2 3 1 の取付孔 2 3 5 , 2 3 5 が取付台座 3 1 5 のネジ穴 3 1 6 a , 3 1 6 b に合致する。ここで、図 1 3 (a) に示すように、取付封止片 2 3 0 内に收容されていたワンウェイネジ 2 4 0 a をドライバーによりネジ穴 3 1 6 a に螺入すると、可動ベース 3 0 2 に対して基板ケース 2 0 0 が離脱不能に取り付けられる。

【手続補正 1 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 4 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 2 4 1 】

すなわち、ワンウェイネジ 2 4 0 a は、一度ネジ穴 3 1 6 a に取り付けられると、ドライバー等の工具を操作溝に差し込んでも、ワンウェイネジ 2 4 0 a を逆回転させることができない、つまり二度とネジ穴 3 1 6 a から取り外すことはできない取付部材であるため、基板ケース 2 0 0 は、該基板ケース 2 0 0 または可動ベース 3 0 2 等の所定部位（例えば取付封止片 2 3 0 の切断片 2 3 3 等）を切断（破壊）しない限り可動ベース 3 0 2 から取り外すことができない取付状態で取り付けられる。

【手続補正 1 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 4 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0242】

また、遊技制御基板40の検査等のために基板ケース200を可動ベース302から取り外す場合、取付封止片230の切断片233を切断する必要があるばかりか、ネジ穴316aにねじ込まれたワンウェイネジ240a及び基板ケース200から切断された取付封止片230を取付台座315から取り外すことができず、可動ベース302に保持されて残存するため、当該取付封止片230にワンウェイネジ240aを取り付け、同じように可動ベース302に取り付けることはできない。すなわち、一度可動ベース302に対する基板ケース200の取付状態を解除した後は、一度取付に使用した取付封止片230とは別の予備用取付封止片231に予備のワンウェイネジ240bを取り付け、別のネジ穴316bに取り付けることになる。

【手続補正18】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0254

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0254】

また、本実施例では、基板ケース200は、図2に示すように、筐体1aの背板上部に取り付けられている。また、各種ケーブル600a～600c、600kが接続される基板側コネクタ620a～620c等が臨むコネクタ用開口236a～236gは、基板ケース200の下辺部に沿って配設されている。そして、遊技制御基板40に接続されるこれらケーブル600a～600c、600kのうち、ケーブル600a～600cは、図14に示すように、基板ケース200の下方位置において筐体1aの左側板内面に設けられた配線フックHFによりまとめて配線されている。また、他のケーブル600kは下方に延設され、筐体1aにおける基板ケース200よりも下方位置に配設されたリール中継基板120等に接続されている。

【手続補正19】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0266

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0266】

また、封印シール400は、回路基板の一例である遊技制御基板40において制御用マイクロコンピュータ（メインCPU41a、ROM41b、RAM41c、I/Oポート41dを備えたマイクロコンピュータ）が実装される実装面40aと同方向（上方）を向く部分である上部領域R1に第1溶剤使用表示部450A及びシール基材401の左方側に配置された第2溶剤使用表示部460A～460Cが配置されているため、第1溶剤使用表示部450A、シール基材401の左方側に配置された第2溶剤使用表示部460A～460C及び制御用マイクロコンピュータの実装面40aの双方を一緒に視認することができること（図14（a）及び図20（a）参照）、溶剤使用表示部450A及び制御用マイクロコンピュータ（メインCPU41a、ROM41b、RAM41c、I/Oポート41dを備えたマイクロコンピュータ）に対する不正行為の確認作業を容易に行うことが可能となるため、作業負担を軽減できる。

【手続補正20】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0267

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0267】

尚、制御用マイクロコンピュータ（メイン CPU 41a、ROM 41b、RAM 41c、I/Oポート 41dを備えたマイクロコンピュータ）に対する不正行為の確認作業とは、例えば、メイン CPU 41a、ROM 41b、RAM 41c、I/Oポート 41dに不正な回路基板が接続されていたり、メイン CPU 41a、ROM 41b等が不正なCPU、ROM等に交換されたりしていないかを確認する作業であるため、これらが搭載される実装面 40aと溶剤使用表示部 450Aとが上方に向けて配置されていれば、基板ケース 200の前面側から双方の状況を一度に確認することが可能となる。

【手続補正 21】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0269

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0269】

また、本実施例では、封印シール 400は、これら第1溶剤使用表示部 450A、シール基材 401の左方側に配置された第2溶剤使用表示部 460A～460C、第1識別情報表示部 451及び第2識別情報表示部 452とが互いに同方向（上方）を向く部分である上部領域 R1に配置されていることで、制御用マイクロコンピュータ（メイン CPU 41a、ROM 41b、RAM 41c、I/Oポート 41dを備えたマイクロコンピュータ）が実装される実装面 40aと同方向（上方）を向くことになることで、第1溶剤使用表示部 450A、シール基材 401の左方側に配置された第2溶剤使用表示部 460A～460C、第1識別情報表示部 451及び第2識別情報表示部 452の確認作業と一緒に、制御用マイクロコンピュータに対する不正行為の確認作業を容易に行うことが可能となるため、作業負担を軽減できる。

【手続補正 22】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0281

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0281】

また、本実施例 1では、ベース側封印部 229及びカバー側封印部 224からなる封印部の周囲には、貼付された封印シール 400の周囲を囲むように周壁部である位置決め凸条 411，421が形成されていることで、封印シール 400を剥離する際に周囲の位置決め凸条 411，421が邪魔になって剥離しにくくなるため、溶剤により剥離した封印シール 400を再度貼付するといった不正行為を抑制できる。

【手続補正 23】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0294

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0294】

尚、本実施例では、基板ケース 200の被取付部としての取付封止片 230、予備用取付封止片 231が取り付けられる可動ベース 302の取付部としてのネジ穴 316a，316bを有する取付台座 315は、可動ベース 302に対して取り付け、取り外し可能に設けられているため、基板ケース 200を2回取り外した場合でも、取付台座 315のみを交換すれば、可動ベース 302を交換せずに使いまわすことが可能であるが、これらネジ穴 316a，316bは可動ベース 302に直接形成されていてもよい。

【手続補正 24】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0304

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0304】

遊技領域1007の中央付近には、液晶表示装置（LCD）で構成された演出表示装置1009が設けられている。演出表示装置1009では、第1特別図柄または第2特別図柄の可変表示に同期した演出図柄（飾り図柄）の可変表示（変動）が行われる。よって、演出表示装置1009は、識別情報としての演出図柄（飾り図柄）の可変表示を行う可変表示装置に相当する。演出表示装置1009は、演出制御基板1080に搭載されている演出制御用マイクロコンピュータによって制御される。演出制御用マイクロコンピュータが、第1特別図柄表示器1008aで第1特別図柄の可変表示が実行されているときに、その可変表示に伴って演出表示装置1009で演出表示を実行させ、第2特別図柄表示器1008bで第2特別図柄の可変表示が実行されているときに、その可変表示に伴って演出表示装置1009で演出表示を実行させるので、遊技の進行状況を把握しやすくすることができる。

【手続補正25】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0342

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0342】

演出制御用CPU1120は、受信した演出制御コマンドに従ってキャラクタROM（図示略）から必要なデータを読み出す。キャラクタROMは、演出表示装置1009に表示されるキャラクタ画像データ、具体的には、人物、文字、図形または記号等（演出図柄を含む）をあらかじめ格納しておくためのものである。演出制御用CPUは、キャラクタROMから読み出したデータをVDP（図示略）に出力する。VDPは、演出制御用CPU1120から入力されたデータに基づいて表示制御を実行する。

【手続補正26】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0345

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0345】

さらに、演出制御用CPU1120は、出力ポート（図示略）を介してランプドライバ基板1035に対してLEDを駆動する信号を出力する。また、演出制御用CPUは、出力ポート（図示略）を介して音声制御基板1070に対して音番号データを出力する。

【手続補正27】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0370

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0370】

このようにシール保護カバー1228は、カバー部材1202の前面側から後面側に向けて押し込むことでカバー部材1202に係止することができるようになっている。そして係止された装着状態において、第1被覆片1620及び第2被覆片1621の内面周縁が位置決め凸条1411，1421及び位置決め角部1412，1422それぞれの当接規制面1413，1423に当接することで、第1被覆片1620及び第2被覆片1621の内面側辺部と封印シール1400の表面1400aとの対向面が互いに離間配置されて非接触状態に維持される。よって、シール保護カバー1228を当接規制面1413，1423に当接した状態で前後にスライドさせて封印部1224，1229に対して着脱する際においても、封印シール1400に接触することがないとともに、装着した状態において、シール保護カバー1228に何らかの外力が付与されても、封印シール1400

に直接伝わることがないので、封印シール 1 4 0 0 の破損が防止される。

【手続補正 2 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 3 7 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 3 7 8】

また、封印シール 1 4 0 0 は、該封印シール 1 4 0 0 の粘着力を低下させるために所定の溶剤（例えば、溶剤 A や溶剤 B など）が用いられたときに該溶剤が使用された痕跡を示す第 1 溶剤使用表示部 1 4 5 0 A ~ 1 4 5 0 D や第 2 溶剤使用表示部 1 4 6 0 A ~ 1 4 6 0 D を有することで、溶剤を使用して封印シール 1 4 0 0 の粘着力を低下させようとした場合、該封印シール 1 4 0 0 の第 1 溶剤使用表示部 1 4 5 0 A ~ 1 4 5 0 D や第 2 溶剤使用表示部 1 4 6 0 A ~ 1 4 6 0 D に該溶剤が使用された痕跡（例えば、第 1 溶剤使用表示部 1 4 5 0 A ~ 1 4 5 0 D や第 2 溶剤使用表示部 1 4 6 0 A ~ 1 4 6 0 D が薄くなる）が残ることで、溶剤を使用して封印シール 1 4 0 0 の粘着力を低下させようとしたことがわかるようになるため、例えば、第 3 者が溶剤により封印シール 1 4 0 0 を剥離して基板ケース 1 2 0 0 を開封した後、不正な主基板 1 0 3 1 を収納した基板ケース 1 2 0 0 に、剥離した封印シール 1 4 0 0 を再度貼付されても、基板ケース 1 2 0 0 が開封されたことを容易に判別することが可能となる。

【手続補正 2 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 3 9 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 3 9 1】

また、図 2 4 に示すように、本実施例 2 では、基板ケース 1 2 0 0 は、パチンコ遊技機 1 0 0 1 の背面略中央位置に取り付けられている。また、各種ケーブル 1 7 0 0 が接続される基板側コネクタ（図示略）が臨むコネクタ用開口 1 2 3 6 は、基板ケース 1 2 0 0 の上辺部に沿って配設されている。そして、主基板 1 0 3 1 に接続されるこれらケーブル 1 7 0 0 は、例えば右側方の配線挿通部 1 7 5 0 にまとめて挿通されている。

【手続補正 3 0】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 3 9 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 3 9 7】

また、本実施例 2 では、ベース側封印部 1 2 2 9 及びカバー側封印部 1 2 2 4 からなる封印部の周囲には、貼付された封印シール 1 4 0 0 の周囲を囲むように周壁部である位置決め凸条 1 4 1 1 , 1 4 2 1 が形成されていることで、封印シール 4 0 0 を剥離する際に周囲の位置決め凸条 1 4 1 1 , 1 4 2 1 が邪魔になって剥離しにくくなるため、溶剤により剥離した封印シール 4 0 0 を再度貼付するといった不正行為を抑制できる。